

第3節 プラスチック資源循環の推進

1 プラスチック資源循環の促進

○「えひめプラスチック資源循環戦略」の策定

(1) 策定の背景・趣旨

プラスチックは、私たちの生活に利便性と恩恵をもたらした一方で、不適正な処理のため世界全体で年間数百万トンを超える陸上から海洋へのプラスチックごみの流出があると推計され、このままでは2050年までに魚の重量を上回るプラスチックが海洋環境に流出することが予測されるなど、地球規模での環境汚染が懸念されている。

国は、これまでプラスチックの3Rや適正処理を率先して進めてきた結果、プラスチック排出量の削減、廃プラスチックの有効利用率85.8%、陸上から海洋へ流出するプラスチックの抑制が図られた一方で、ワンウェイの容器包装廃棄量

(一人当たり)が世界で二番目に多いと指摘されていることなどから、これまでの取組みをベースにプラスチックの3Rを一層推進することが不可欠である。

このため国は、持続可能な社会を実現し、次世代に豊かな環境を引き継いでいくため、再生不可能な資源への依存度を減らし、再生可能資源に置き換えるとともに、経済性及び技術的可能性を考慮しつつ、使用された資源を徹底的に回収し、何度も循環利用することを旨として、令和元年5月31日に、『プラスチック資源循環戦略』を策定した。同戦略の展開に当たっては、「マイルストーン」をその目指すべき方向性として設定し、その達成を目指すことで、必要な技術やイノベーションの促進を図っている。



◎国の「マイルストーン」

(リデュース)

- ・2030年までに、ワンウェイプラスチックを累積で25%排出抑制。

(リユース・リサイクル)

- ・2025年までに、リユース・リサイクル可能なデザインに
- ・2030年までに、プラスチック製容器包装の6割をリユース・リサイクル
- ・2035年までに、使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により有効利用

(再生利用・バイオマスプラスチック)

- ・2030年までに、プラスチックの再生利用（再生素材の利用）を倍増。
- ・2030年までに、バイオマスプラスチックを最大限（約200万トン）導入。

(2) 本県の状況を踏まえた方針

本県は、風光明媚な自然景観とその中で育まれた歴史・文化的景観があり、全国第5位の長さの海岸線と全国有数の港湾・漁港数を有しており、プラスチックごみによる海洋汚染は、海洋環境や沿岸環境のみならず、水産業や観光業等幅広い分野に深刻な影響を及ぼすおそれがある。

このため、本県のプラスチックの資源循環を総合的に推進するため、『えひめプラスチック資源循環戦略』を策定し、県・市町をはじめ、企業、県民等が、主体的かつ積極的に連携、協働して取組みを進め、効果的な発生抑制対策や不適正な処理の防止を図っていくこととした。

本戦略の展開を通じて、本県におけるプラスチックを巡る資源・環境両面の課題を解決するとともに、「プラごみ対策先進県えひめ」のブランド化を図ることにより、地域イメージの向上並びに地場産業の活性化に繋げ、新たな成長の源泉としていく。

(3) 戦略策定までの経緯

- ①「県・市町連携推進本部会議」（令和元年8月5日）：戦略の策定・推進を合意
- ②「環境局・市町連絡会議」（令和元年12月9日）：戦略（案）の概要を市町に説明
- ③「えひめ循環型社会推進計画評価委員会」（令和2年3月17日）：戦略（案）を審議、了承

(4) 目標 — 3R+Renewable（持続可能な資源） —

- ワンウェイのプラスチック製品等の使用を合理化し、無駄に使われる資源を徹底的に減量。
- プラスチック製品等の原料を再生材や再生可能資源（紙、バイオマスプラスチック等）へ適切に切り替え。
- できる限り、長時間プラスチック製品を使用。
- 使用後は、効果的・効率的なリサイクルシステムを通じ、徹底的に分別回収し、循環利用。（リサイクルによる再生利用のほか技術的、経済的に困難な場合、熱回収によるエネルギー利用を含む。）
- 3Rの取組みや適正な廃棄物処理を前提に、プラスチックごみの流出による海洋汚染が生じないことを目指し、ポイ捨て・不法投棄撲滅、清掃活動の推進によりプラスチックの海洋流出を防止。また、海洋ごみの実態把握、海岸漂着物等の適切な回収の推進により海洋汚染を防止。

(5) 重点戦略

—実効的なプラスチック資源循環の促進と海洋プラスチックごみ対策の推進—

① プラスチック資源循環の促進

ア リデュース等の徹底

- ・ワンウェイプラスチックの使用削減（普及啓発等を通じた意識醸成）
- ・プラスチック代替製品等の開発・販路開拓・利用促進
- ・リユース製品等の利用促進

- ・消費者のライフスタイルの変革を通じたリデュース、リユース等の取組みの推進

イ 効果的・効率的で持続可能なリサイクル

- ・分別回収・リサイクル等の徹底推進
- ・漁具等の陸域回収の徹底
- ・適切な店頭回収や拠点回収の推進

ウ 再生材・バイオプラスチックの利用促進

- ・需要喚起策（県・市町による率先調達、消費者への普及啓発）
- ・可燃ごみ指定袋などへのバイオマスプラスチック使用

② 海洋プラスチックごみ対策の推進

プラスチックごみの流出による海洋汚染が生じないことを目指した

- ・ポイ捨て・不法投棄撲滅・適正処理
- ・海岸漂着物等の回収処理
- ・代替イノベーションの推進
- ・海洋プラスチックごみの実態把握
- ・マイクロプラスチックの海洋への流出抑制

(6) 各主体の具体的な取組み

重点戦略に掲げる取組みを実効的かつ効果的なものにしていくため、行政（県・市町）、企業・団体等、県民が、以下の「各主体の具体的な取組み」の項目に基づき、主体的かつ積極的に連携、協働し、幅広い取組みの実施に努める。

《各主体の具体的な取組み》

① 県民

ア プラスチック資源循環の促進

◎ 3Rの取組みの実践

- ・マイバッグ・マイボトルの携行
- ・マイ箸・マイストロー・マイ容器等の持参
- ・プラスチック容器等の繰り返し利用
- ・詰め替え商品や量り売りの利用
- ・不要なレジ袋の提供の断り
- ・不要な使い捨てスプーンやフォーク、包装の断り
- ・クリーニングハンガーの店舗への返却
- ・プラスチック容器の店頭回収の利用
- ・市町のルールに従ったプラスチックごみの分別の実施

イ 海洋プラスチックごみ対策の推進

◎ 適正処理の取組みの実施

- ・外出時に発生したプラスチックごみの持ち帰り
- ・ポイ捨て禁止
- ・地域で開催される海岸、河川、道路等での清掃活動に参加

- ・落ちているごみを見つけたらごみ拾い
- ・マイクロビーズ等のマイクロプラスチックを含む製品の使用を抑制

② 事業者

ア プラスチック資源循環の促進

◎製造・販売事業者等の取組み

- ・紙・バイオマスプラスチック等を利用した代替製品の技術開発
- ・廃棄物等の3Rの促進に関する研究開発や技術・設備の導入

◎小売店・飲食店・ホテル等の取組み

- ・紙ストローなどのプラスチック代替製品等の導入
- ・「環境にやさしい買い物キャンペーン」への参加
- ・不要なレジ袋、使い捨てスプーンやフォークの提供や包装を自粛
- ・プラスチック容器の店頭回収場所の設置

◎イベント主催団体等の取組み

- ・主催イベントにおけるリユース食器の導入

◎農業・漁業関係者の取組み

- ・漁具の陸域での回収の徹底や適正処理の実施
- ・農業用具の回収の徹底や適正処理の実施
- ・生分解性プラスチック農業用マルチの利用促進

◎その他

- ・県や市町と連携を図りながら、レジ袋の削減やマイバッグ・マイボトルの利用等を促進するためのキャンペーンを実施
- ・職員へのマイバッグ・マイボトル持参の呼びかけ
- ・職場内における廃棄物分別回収の一層の徹底
- ・「プラスチック・スマート」キャンペーンへの参加

イ 海洋プラスチックごみ対策の推進

- ・地域で開催される海岸や河川、道路、公園等での清掃活動への参加
- ・海で分解される素材の開発や導入
- ・漁具の陸域での回収の徹底
- ・漁業操業時に、網に混入するごみの持ち帰りの徹底とその適正処理の実施
- ・漁具の適正な使用・管理による、非意図的な流出の防止
- ・マイクロビーズ等のマイクロプラスチックを使用しない製品への切り替え

③ 県

ア プラスチック資源循環の促進

◎県民に向けた取組み

- ・市町や事業者等と連携を図りながら、レジ袋の削減やマイバッグ・マイボトルの利用等を促進するためのキャンペーンを実施
- ・「愛媛の3Rフェア」等の環境イベントにおけるプラスチックごみ削減や、プラスチック代替製品等の利用促進に向けた意識啓発の実施
- ・セミナー、環境学習、教育現場への資料（教材）の提供、県ホームページ等を通じた意識啓発の実施

- ・イベント会場等でのリユース食器の使用に対する理解促進

◎事業者に向けた取組み

- ・プラスチック代替製品等の開発を支援し、紙産業等の地場産業を活性化
- ・プラスチック代替製品等の販路拡大や利用促進の支援を実施
- ・廃棄物等の3Rの促進に関する研究開発や、技術・設備の導入等に対する支援を実施
- ・環境イベントでの意識啓発の実施
- ・セミナー、環境学習、県ホームページ等を通じた意識啓発の実施
- ・イベント主催者等へのリユース食器導入の呼びかけ

◎庁内での取組み

- ・会議等における回避可能なワンウェイプラスチックの削減
- ・再生材・バイオプラスチックの率先的な公共調達の検討
- ・庁舎内における廃棄物分別回収の一層の徹底
- ・公共工事等でのプラスチック代替製品等の活用を検討
- ・「県庁マイバッグ・マイ箸・マイボトル運動」の実施
- ・「プラスチック・スマート」キャンペーンへの参加

イ 海洋プラスチックごみ対策の推進

- ・海岸漂着物対策推進協議会を開催し、関係機関（国、市町、大学、民間団体等）との連携を強化
- ・国の補助金等を活用した、県管理海岸等での海岸漂着物の回収・処理の実施
- ・県内の沿岸・海域における海洋プラスチックごみの実態及び経時的変化を把握するための調査の実施、並びに、調査結果に基づく海洋プラスチックごみ削減のための効果的な施策の立案
- ・不法投棄110番の設置や監視カメラ・環境パトロールカー等による監視体制の強化
- ・海岸や河川、道路、公園等での清掃活動の推進
- ・瀬戸内海環境保全知事・市長会議を活用し、共同調査等の協力体制を構築
- ・セミナー、環境学習等を開催し、海洋プラスチックごみ削減やマイクロプラスチック流出抑制のための意識啓発を実施

④ 市町

ア プラスチック資源循環の促進

◎住民、事業者に向けた取組み

- ・県や事業者等と連携を図りながら、レジ袋の削減やマイバッグ・マイボトルの利用等を促進するためのキャンペーンを実施
- ・自治会や学校等への出前講座、ホームページ等による意識啓発の実施
- ・イベント会場等でのリユース食器の使用に対する理解促進
- ・プラスチック代替製品等の利用促進の呼びかけ
- ・市町分別収集計画に基づく容器包装廃棄物の分別収集の促進
- ・指定ごみ袋や啓発資材などへのバイオマスプラスチック導入の検討

◎庁内での取組み

- ・会議等における回避可能なワンウェイプラスチックの削減
- ・再生材・バイオプラスチックの率先的な公共調達を検討
- ・庁舎内における廃棄物分別回収の一層の徹底
- ・公共工事等でのプラスチック代替製品等の活用を検討
- ・「マイバッグ・マイ箸・マイボトル運動」の実施
- ・「プラスチック・スマート」キャンペーンへの参加

イ 海洋プラスチックごみ対策の推進

- ・国の補助金等を活用した、市町が管理する海岸・漁港等での海岸漂着物の回収・処理の実施
- ・海岸漂着物対策推進協議会に参加し、関係機関との連携強化
- ・住民参加の海岸や河川、道路、公園等での清掃イベントの実施
- ・環境美化キャンペーン等の実施
- ・ボランティアによる清掃活動の呼びかけ
- ・不法投棄防止看板や監視カメラの設置等による不法投棄の未然防止

(7) 成果指標

本戦略における施策の進行状況を把握するため、以下のとおり成果指標を設定。

	項目	現時点	目標(R6)
(1) プラスチック資源循環の促進			
1	「環境にやさしい買い物キャンペーン」参加店舗数	515店舗 (R1時点)	715店舗
2	プラスチック製容器包装(PETボトルを除く。)の分別収集実施市町数	11市町 (R1時点)	20市町
(2) 海洋プラスチックごみ対策の推進			
3	クリーン愛媛運動の参加者数	218千人	現状より増加
4	愛リバー・ロード・ビーチ登録団体数	563団体 (H30時点)	現状より増加
5	経年調査地点におけるプラスチックごみ回収量	R2年度より調査実施	R2より減少

(8) 今後の戦略展開

今後、本戦略に基づき、県・市町が緊密に連携・協力しながら、各種施策に積極的に取り組むことにより、「オール愛媛」でプラスチックの資源循環を進めていく。

また、施策の進捗状況の点検・評価を行い、「えひめ循環型社会推進計画」の改定・策定に合わせて、戦略の内容について検討を行い、必要な見直しを行っていくとともに、各主体の自主的な取組みを後押しし、連携協働の取組みを更に推進していく。

2 海洋プラスチックごみ対策の推進

プラスチックごみによる海洋ごみの発生抑制には、県民一人一人が、日頃から

プラスチックごみの減量化や適正処理に取り組むことが肝要となることから、海洋プラスチック汚染の実態の正しい理解を促すとともに、プラスチック資源循環の徹底を呼びかけるシンポジウムを開催するなど、各種普及啓発を実施した。

(1) 愛媛県プラスチック資源循環シンポジウムの開催

○開催日時 令和元年9月16日（月・祝）

13：00～16：20

○開催場所 愛媛大学 南加記念ホール
（愛媛大学 城北キャンパス内）

○協力 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
愛媛大学南予水産研究センター

○参加人数 約260人

○内 容

ア 基調講演

【講演1】テーマ「海洋プラスチック問題の現状と今後の方向性」

講師：環境省 海洋環境室 中里 靖室長

【講師2】テーマ「瀬戸内海におけるマイクロプラスチック調査から見てきた海岸漂着ごみ回収の意味について」

講師：愛媛大学 大学院理工学研究科 日向 博文教授

イ パネルディスカッション

テーマ「海のプラスチックごみは次世代の生命を脅かす!？」

【コーディネーター】南海放送アナウンサー 永野 彰子

【パネリスト】環境省 海洋環境室 中里 靖室長

愛媛大学 大学院理工学研究科 日向 博文教授

株式会社コスモ精機 代表取締役 松原 正廣

愛媛ホンダ会 代表者 脇本 則彦

○その他 ペットボトル等の使い捨てプラスチック容器の削減や環境意識の啓発のため、会場内に給水サーバーを3台設置し、参加者にマイボトル・マイカップ持参の呼びかけを実施。



【パネルディスカッションの様子】

(2) 各種普及啓発事業の実施

① 「環境にやさしい買い物キャンペーン」普及啓発イベントの実施

毎年10月の3R推進月間中に実施している「環境にやさしい買い物キャンペーン」の新たな取組みとして、レジ袋の削減やマイバッグの積極的利用の意識喚起を図るための啓発イベントをキャンペーン参加2店舗において実施した。

○実施日：令和元年10月14日（月・祝）

○実施場所、時間

ア イオンスタイル松山、10時30分～12時

イ フジグラン松山、14時～15時30分



【イベントの様子】

○実施内容

- ア マイバッグ持参の呼びかけ
- イ レジ袋の使用状況等に関するアンケートの実施
- ウ パネル展示 など

② テレビ・ラジオでの普及啓発

- ア ラジオ番組・中四国ライブネットにおいてシンポジウムのパネルディスカッションの様子を放送

○放送日時：令和元年9月22日（日）18時～20時

- イ 3R推進月間（10月）中、テレビ・ラジオパブリシティによる普及啓発を実施

(3) その他

プラスチックごみの発生削減対策として、10月5、6日にエミフルMASAKIで開催した「愛媛の3Rフェア」や、11月23、24日に、DCMダイキ(株)本社1階「ゆめ・みらい住まいの創造かん」で開催した「優良リサイクル製品展示即売イベント」において、プラスチック代替製品を紹介する特設コーナーを設置するなど、紙製品等のプラスチック代替製品の認知度向上及び販路拡大を支援する取組みを実施した。